
JOA 対話集会

日時: 12/18(金) 18:30-20:00
場所: 立正大学

出席者: 19名(以下敬称略)

藤島(理事)、田中博(トレイル)、高橋(東京都)、石川(サンスーシ)、新田見(練馬)、新垣(練馬)、児玉(多摩OL)、筆谷(早稲田OB)、笠原(ソニー)、五十嵐(横浜)、宇治橋(早稲田)、奥田(京葉)、羽鳥(MTB 理事)、小野(総務委員長)、山西(会長)、大里(理事)、村越(副会長)、柴田(SKIO委員 議事録)、吉田(強化委員会アドバイザー)

(冒頭)

山西: 開催のあいさつ

財政問題が一番大きな問題だが、プレイとは何かを考えることが必要。ひとつでも実行していくが重要。

村越:

批判・励ましの言葉色々いただいた。

JOAのビジョンをどのような方向に向けていくことが大事。

JOAの存在意義:(資料参照)

国を代表する組織であり、世界に選手を派遣・強化するのは組織として欠かせない
ルールを定め公平な競技を行える環境を提供する。誰のものではない土地で行われる競技
であり、社会的に認知される必要がある
社会に還元していく(ナビゲーションスキルや地図を読むスキル)
楽しむ仲間を増やす、人を増やすことが重要

・ JOAのビジョンの説明

・ 財政改革の骨子とその必要性

・ 会員への支援策

10万円が会費だが、実質会費は5万円。5万円をバックし、組織育成費としている。

組織育成費をやめることが変更点だが、やっていけない会員を支援する方法は考えていく必要がある。

・ 活性化案について

意見・質問等

藤島: 都道府県協会の会員は何人か→15名/18名: 所属していない3名

(運営費に関して)

五十嵐 事務局の件数(350万円)が発生しているが、普段何をしているか

村越、大里- 登録事務作業、財務会計、問い合わせ対応、助成金の手続き、派遣手続き等の事務作業

総労働時間は3000時間弱、合計4人だが、基本は1人が詰めている。一人当たり時給1000円台前半程度。

新田見 3000万円程度の予算のうち750万と切り出しているのはなぜか?

村越 助成金で1760万円程度、主催大会からの収入は数十万円程度で除外、最低限組

織として維持するのに最低限必要なのが固定費750万円。
藤島 公益社団法人を選んだ理由。寄付をもらうあてがあったのか。
村越 スポーツ団体は公益社団法人。寄付金のメリットという意識はあった。
山西 お金が絡む団体としては公益社団法人が普通。
小野 競技力向上に寄付金はあるが、JOAの運営に対する寄付はほとんどなし。

(一時登録制度、学連について)

奥田 競技者登録5000円だが、学生及び一時登録はどうなるのか？
村越 一時登録は廃止。学生は学連に登録料を払うが、学連からJOAは10万円の会費をもらう形になっており、個人の登録料はもらっていない。
学生とは一緒にやるのが大事。今後は学連に便益を図ることで、お金をもらう方法がないか考えたい。
奥田 来年から値上げするのか？
村越 その予定。2月7日の理事会で規定を変える。予算も承認される予定。
奥田 5000円上げるとは決定しているのか。
村越 決定事項。会費については(会員である)県協会の承認は得ている。
なお、一時登録はこれまでほとんど学生。学生は、学連がJOAに加盟することで一時登録をしなくても出れるようになっている。

(値上げによる影響について)

石川 公認大会に出るのはせいぜい2回。2000円であれば登録する。公認大会1回のために5000円を払うか。5000円払わないと出れないのであれば躊躇する。
奥田 5000円だと敬遠されるシステムになる。公認大会の申請はクラブとして躊躇するのではないか。
田中 競技者登録を値上げしたら辞める人が何人いると想定しているか。
大里 2割。実質的なJOAの収入としては、2割減ったとしても現在100万円程度→ +200万増える想定。
JOAだけではなく、県協会にも増収となる。
田中 2割減は想定として甘いのでは？
羽鳥 最悪4割減のケースで試算したが、増収。8割いかないと都道府県がきつい結果となった。
大里 一時的には減るが、また元に戻ることを期待している。
2年目、3年目にJOAがよくなってきたら、戻ってきてもらいたい。
村越 競技者であることの価値を高めたい。
お金を払うことで、競技の価値を再認識することにつながると思っている。

小野 ほかのスポーツに比べると、競技登録者の意欲が低い。
村越 競技指向が強くない人が多いのは事実だが、公認大会は高い品質で競技指向者が集まる大会。
公認大会の価値を高めていくべきでは。
石川 世界を目指す人もいるが、趣味の人もいる。同じ制度で処遇するのは無理があるのでは。
ドーピング検査も自分が対象になるとは思っていなかった。現実問題Bクラスが中級者向けとして機能していない。
トップエリートと楽しむ人とは分けた方がよいのでは。

- 村越 同感。
- 高橋 競技者指向でいくのは、理想だが不可能。
- 田中 JOAは競技者だけの団体を目指しているのか？
- 村越 競技者を明確にし、価値を高める。楽しみのためにやりたい人とは明確に分けていく必要性があると考えている。5000円の価値を見出す人が、まずは100人でもいれば、徐々にでも広げていきたい。
- 奥田 8割は甘いのでは。半分いかない可能性もあり、値上げ前より収入が減るのでは。公認大会の規制が厳しい。敬遠される。緩和して公認大会を増やすほうが良いのでは。
- 大里 本来の競技者登録は競技者指向の人から集める方法。そうでない人は、浅く広く集める方法でやるのが良いと思っている。現実には、競技者指向でない方からも寄付の意味合いも含め、ご協力いただいていると認識している。
- 新垣 体協に入る際に、競技者数を把握するためにやっていたのでは。
- 高橋 山岳協会は会費を払っているが、クラブに入るイメージで払っているのでは、性格が違うのでは。
- 奥田 エリートは5000円でもよいのでは。Aクラスやシニアでも必要。愛好家レベルの人が払わない可能性も高いと思う。
- 笠原 全日本リレーの影響が大きいと思う。全日本リレーだけは一時登録させてはどうか。Bクラスは中級者向けとして機能していない。Bクラスが厚くなって機能するようにしてはどうか。ちゃんとしたBクラスを作るべきでは。Aクラスはレベルの差が広い。
- 村越 初心者を受け入れる仕組み、ステップアップさせる仕組みがない。そこを補完していくことが大事。
- 小野 全日本大会始めたころはBクラスが多かった。今は参加者減に合わせて減ってしまった。
- 吉田 昔は各クラスごとにBクラスがあった。運営が大変だったので、Bクラスは年齢かわらずに作った。下からステップアップしていくことが想定されている。シニアのBクラスは必要。競技者登録で減るのも見込んでいるが、中間レベルを増やしたほうが良い。Bは楽しむ人。Bを充実させて、表彰させるのが良いのでは。競技者登録費用がリターンされているとは誰も思っていない。使われていることを出していけば、納得して払うと思われる。

(広報活動について)

- 田中 来年の4月からいきなりやるというのに、びっくりしている。
JOAとして広報をやっている実績がなく、抵抗がある。もう1年延ばして説明するなど、離反していく可能性が高いのでは。
- 大里 広報活動はこれまでもやっていて、JOAニュースにも書いています。(7月)
- 吉田 JOAの広報はすごく下手。Webサイトも情報を探さないといけない。
- 大里 1年延ばしても意味がない。これまで3年間かけて浸透を試みたが、この現状。
- 田中 県協会が機能していない。県協会やクラブを使っていない。
クラブからのニュース、通知はよく読んでいます。
県協会が機能していない。やり方を変えれば広報できるのでは。
- 笠原 5,000円にすることは賛成。ただし、スムーズに移行するために、1,000円程度の一時登録を期間限定で受け付けてはどうか？
- 奥田 暫定処置があってもよいのでは。様子見たほうが良いのでは。
- 大里 上げるなら一回が良い。

- 羽鳥 オリエンテーリング人口は30年間で3割しか減っていない。
子供も減っている中、ほかの競技ではどう考えても5割以上減っていて、オリエンテーリングはうまくいっている。
オリエンテーリングというビジネスがうまくいっている。
広く集めるとしてもうまくいかない。オリエンティアが減っていない理由は高齢化が進んでいるから。
ゲートボールはここ30年で1/20になっている。
オリエンテーリングは24/25歳までが5割。30歳以上の人たちが、学生たちに投資していると考えべき。
- 高橋 orienteerML ではみんな反対の趣旨。資料を全部ひっこめて新しくやり直したほうが早いのでは。
オリエンテーリング界が発展していくことをやっていかないといけないのでは。
固定費をカバーする方法を考えないといけない。なりふり構わず参加者を増やすのが重要では。
- 田中 時間的余裕はないのか。
- 大里 ない。JOAとしてコントロールできるところは競技者登録。大会参加費を増やすのは、大会運営者の皆の協力が必要で、JOAとしてはコントロールできない。
- 田中 実入りを増やす方法を考えるべきでは。ピンポンは競技玉からとっている。
これまであまりJOAでは何もやっていないと考えており、感覚的に納得できない。
- 村越 浅く広くやるのも必要。(これらについて考えられることは配布資料の)Ⅲに書いてある。

- 田中 値上げは絶対やるというが、ほかにやるべきことは。トーンダウンしているのでは。
- 村越 会費のことはJOAでコントロール可能だが、ほかのことは主催者次第。
ただし、ほかのことも絶対やります。
- 羽鳥 JOAでやることは削るべきだと思う。物品販売は人件費も含めれば赤字になるだろう。
サービスを充実させることは現実的ではない。
トレランや外から人は入ってこない。現実、年に数人レベル。
オリエンティアを減らさない努力をするしかない。

(組織上の関係性等)

- 奥田 学生はゼロ円で、社会人になると5000円になるのは大変では。
- 吉田 学生は4000円が5000円になるので、あまり変わらない。
- 田中 県協会が機能していない。学生はOB名で出ている。
- 吉田 昔は地域クラブを発展させるためにやっていた。
- 奥田 学生は知らないのでは？
学連を通じて知らせるべきでは。学連が下部組織になったのにあまり変わっていないのでは。
- 村越 学生に対しては伝えきれていない部分もある。
- 吉田 これを機会に何をやるのかが具体的に出ていないので、とられているだけだという感覚になる。
スローガンだけではなく、具体策を出してほしい。指導員を活用することができる。
やる人を増やすために、インストラクターの仕事を増やしていく。
例えば、学校の土曜講座でやると良い。普及活動、強化活動に対して県協会がお金を出している。
活動をやりたくて入っている人がいる。スウェーデンでも若年層がやらなくなっているのが

問題。

世界オリエンテーリングDayのきっかけも若年層の取り込み。人数も増えるようにやっていくことを出して欲しい。

大里 今の組織で実現可能な案はありがたい。県協会を支援する制度を今回は取り入れている。

120万円の予算を増やして、困窮している県協会に補助する。うまくいっている県協会のやり方を広報していきたい。

五十嵐 まずはJOAを助けることが必要では。大会参加費は安い。参加費を100円あげようが変化はないので、

ダイレクトに大会運営者にお金をもらうことを依頼しては。競技者登録はメリットを感じない。

田中 クラブの連絡先が分かっていないのでは。県協会よりも直接クラブとやっては。

村越 構成員は県協会。クラブは大事だが、筋は通す必要もある。

羽鳥 世界選手権は2018年は隔年に移行。大会を世界でも運営できない。

IOFはオリンピックを目指している。オリンピックにならないと競技は死ぬ。JOAの存亡が、競技自体の存亡にかかわることを伝えたい。

藤島 練習をしていない人が多い。

吉田 スポーツマン教育を受けていない。たまたま成績が良ければ世界大会にいける、という感覚が強い。厳しいことを言うと、参加者が減ってしまう。

羽鳥 若い選手を育てていく必要があるだろう。

村越 ワクワクするオリエンテーリングを作りたい。

新しい仲間をどうやって増やすかは重要。今後もやっていく。一人でも多くのオリエンティアに納得・理解できるように努力していく。